

プロダクティブ・エイジング 東京ステートメント

ラウンドテーブルミーティング参加者
International Longevity Center-Japan
International Longevity Centre -UK

長寿革命によって世界は前例のない新しい人類の進化の過程に突入した。

この革命は急速に進行しており、その影響はきわめて大きなものである。多くの人が健康で長生きできるようになった一方で、教育や労働環境、政治、経済、倫理そして高齢者自身の生き方が、時代の流れに十分に適応しているとは言い切れない。

長寿の時代に即した認識や価値観を深め、社会経済的制度を根本的に見直ししていくべき時期である。

例えば、職業人生で貢献するのは若いうちだけのことであり、退職後は悠々自適の生活を送るという発想は捨てるべきである。このような考え方は、生涯現役で活躍する高齢者の社会貢献の価値を理解していない。

真に長寿の恩恵を享受するには、高齢者自身が自立して活力をもって自身の暮らしを営み、社会に貢献し続けることが必要である。

私たちは、よりよく幸せに生きるための高齢者の責任と権利を、明確にすべきであると考える。

- 高齢者は、その力を発揮して社会経済に貢献し、自らが培った技術を次世代に継承し、また社会の負担を最小限に抑えるために、可能な限り労働市場に残る責任がある。その環境を作るために企業および社会も努力すべきである。
- 高齢者は、労働市場から引退したのちも、社会と関わりを持ち続ける責任がある。多くの高齢者が退職後も意欲的に生きるために、熱心にボランティア活動に取り組んでいる。ボランティア活動は柔軟に行われ、楽しいものであり、高齢者の専門的な能力や経験を活用できるものとすべきである。
- 高齢者は、住み慣れた地域で暮らし続ける権利を持つべきである。一方で、地域の中で高齢者が主体的に自助・互助・共助の仕組みをつくり上げることも重要である。また、支援や介護が必要な高齢者でも、自身の人生を他人に委ねるのではなく、尊敬あるものとする意思を持ち続けることにより、社会への貢献が可能であるし、適切なケアの仕組みの構築は経済活動にも寄与することになる。
- 長寿が社会を豊かにし、その恩恵をすべての世代が享受できることを証明するために、長寿先進国は先頭に立ってその責任を果たしてゆくことになる。